

日本原子力学会 2023年秋の大会
原子力発電部会企画セッション

国際廃炉研究開発機構における 研究開発の状況

令和5年9月7日

国際廃炉研究開発機構 (IRID)

奥住 直明

この成果は、経済産業省/廃炉汚染水対策事業費補助金の活用により得られたものです。

無断複製・転載禁止 技術研究組合 国際廃炉研究開発機構

目 次

1.はじめに

2.PCV/RPV内部調査技術開発

3.燃料デブリ取り出し技術開発

目 次

1.はじめに

2.PCV/RPV内部調査技術開発

3.燃料デブリ取り出し技術開発

国際廃炉研究開発機構(IRID)概要

1. 名称

技術研究組合 国際廃炉研究開発機構 (IRID)

(International Research Institute for Nuclear Decommissioning)

2. 設立

2013年8月1日

3. 組合員 (19法人)

国立研究機関 2

日本原子力研究開発機構、産業技術総合研究所

メーカー等 5

東芝ESS, 日立GE, 三菱重工業、アトックス

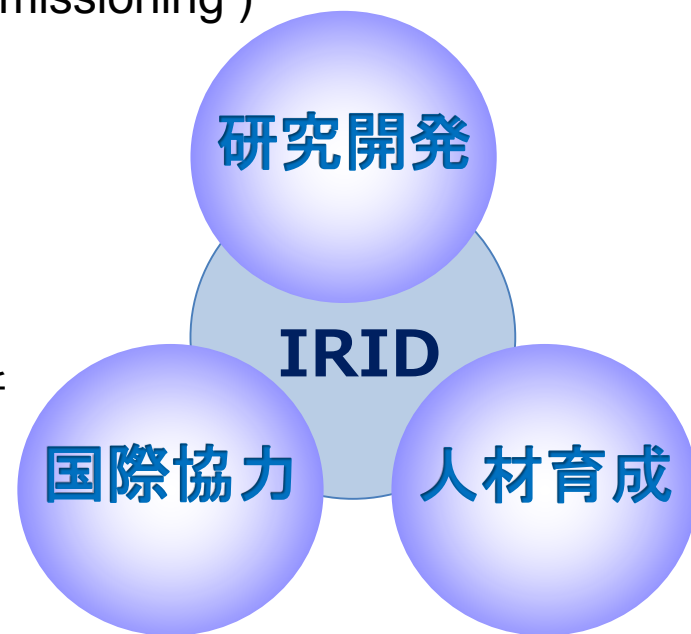
東双みらいテクノロジー

電力会社等 12

北海道電力、東北電力、東京電力HD、中部電力、北陸電力

関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、日本原子力発電

電源開発、日本原燃



1. プール燃料取り出しに係る研究開発

使用済燃料プールから取り出した燃料集合体の長期健全性評価

3. 廃棄物対策に係る研究開発

固体廃棄物の
先行的処理手法
技術

固体廃棄物の
処理・処分
技術

2. 燃料デブリ取り出しに係る研究開発

除染・線量低減技術

R/B内の
遠隔除染
技術

燃料デブリ取り出し技術

燃料デブリ・炉内構造物取出 臨界管理・基盤技術 小型中性子検出器

燃料デブリ・
炉内構造物
取り出し技術・工法
開発

燃料デブリ・
炉内構造物取出
ダスト集塵
システム

燃料デブリ
収納・移送
・保管技術

燃料デブリ取り出し
安全システム
の開発

環境整備技術

<安定状態の確保>

RPV/PCVの
腐食抑制・耐震性評価

PCV漏えい箇所の
補修・止水及び実規模試験

PCV内水循環技術 実規模試験

内部調査・分析技術

<間接的調査>

<直接的調査>

RPV内燃料デブリ検知技術・評価

総合的な炉内状況把握の高度化

PCV詳細調査技術

RPV
内部調査
技術

PCV詳細調査
X-6 α ネ
実証 (自主)

PCV詳細調査
堆積物
実証 (自主)

燃料
デブリ性状
把握・分析

燃料デブリ
サフリング・
規模拡大
技術

目 次

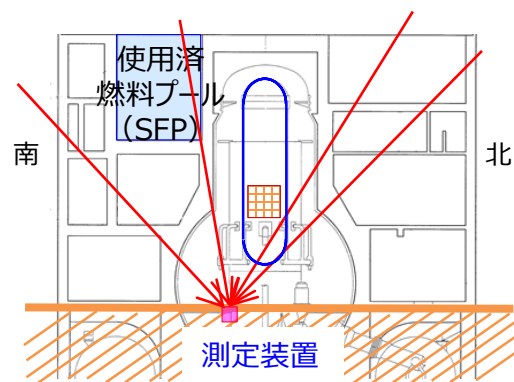
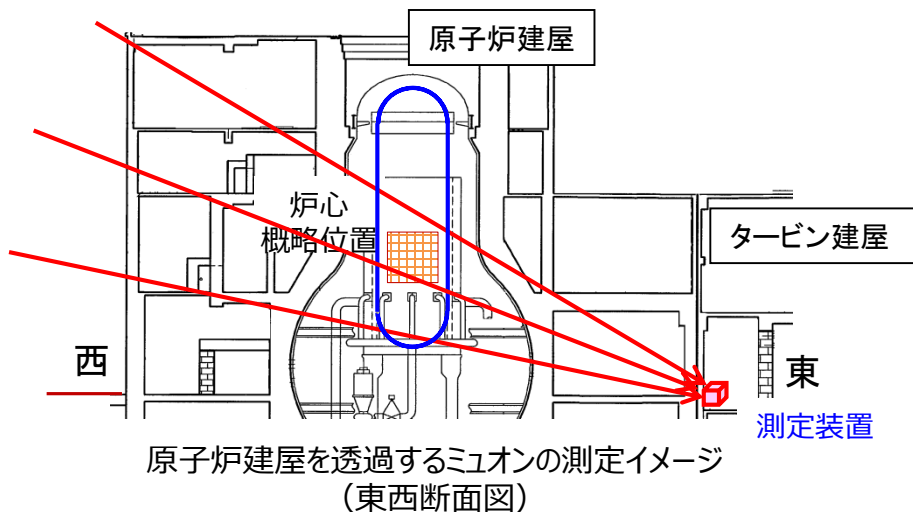
1.はじめに

2.PCV/RPV内部調査技術開発

3.燃料デブリ取り出し技術開発

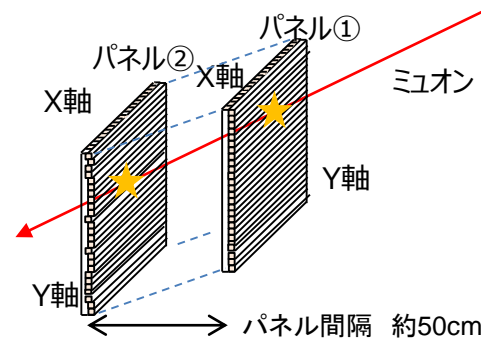
ミュオン透過法による測定

- ミュオンは、宇宙から飛来する放射線が大気と衝突する過程で発生する二次的な宇宙線。エネルギーが高く、物質を透過しやすい。
- 原子炉建屋を透過するミュオン数を測定し、その透過率から原子炉压力容器内の燃料デブリ分布をレントゲン写真のように撮影。（高密度の物質ほど透過しにくく、暗い影になる）

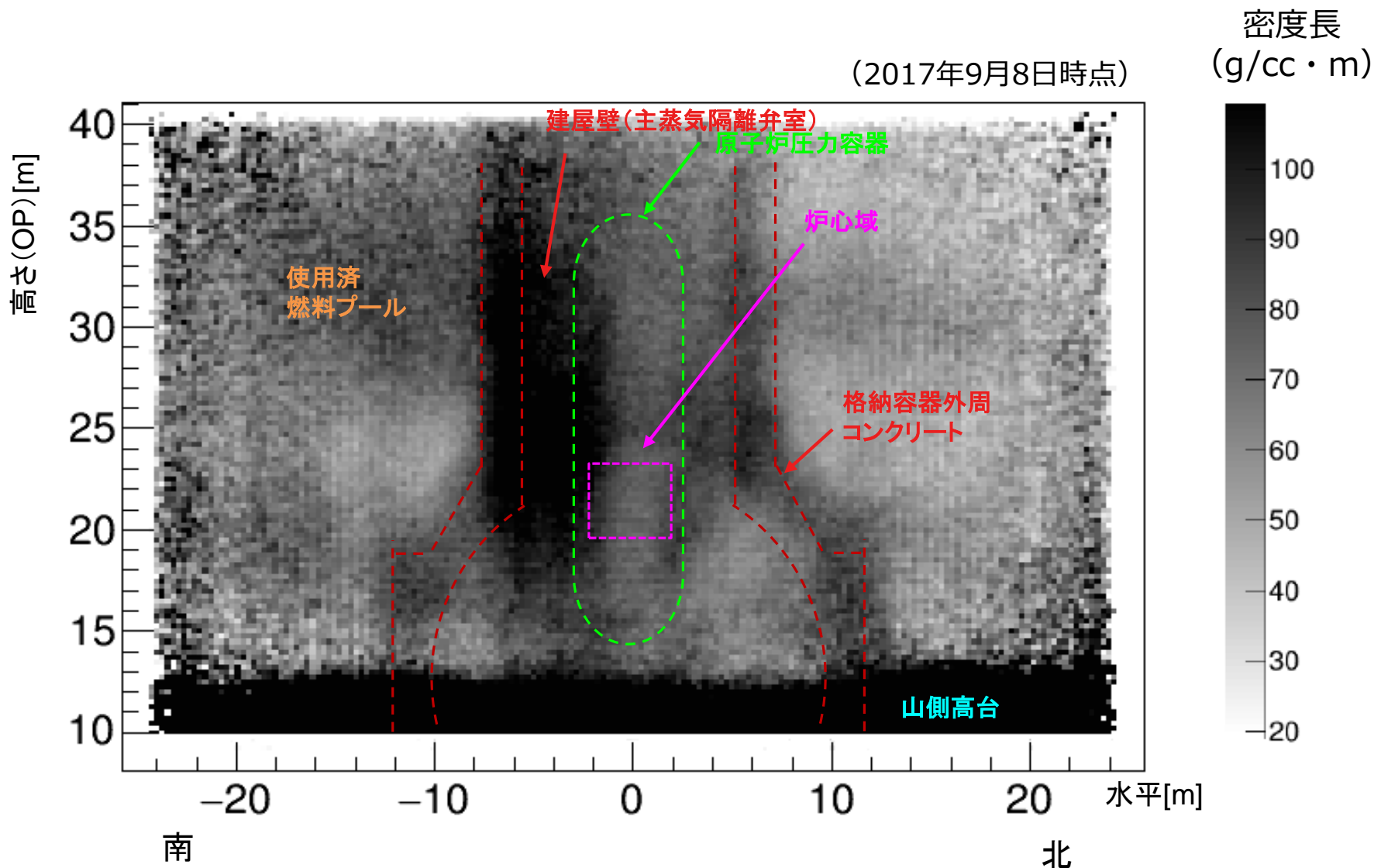


<ミュオン透過法測定装置の計測原理 (イメージ)>

上空から飛来するミュオンを装置内部に配置した2枚のパネル検出器 (プラスチックシンチレータ) で検知し、通過したパネルの座標からミュオンの軌跡を算出。



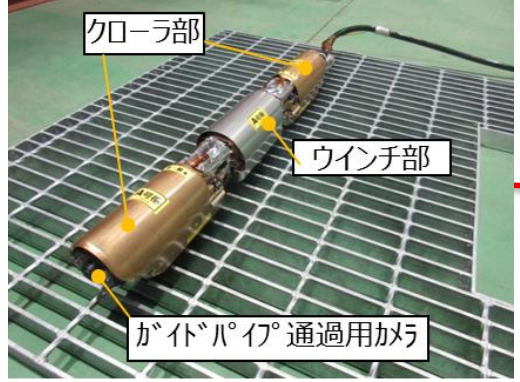
3号機ミュオン透過法測定結果



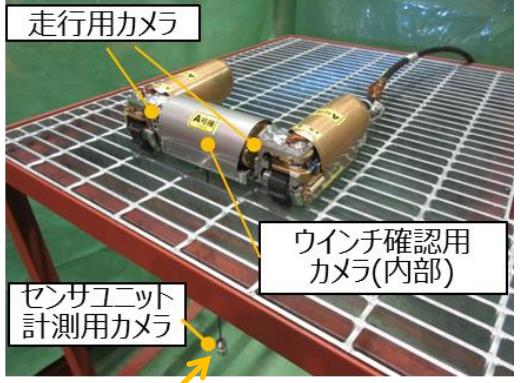
原子炉格納容器内部のロボット等による調査

ペDESTル外側の調査 (1号機)

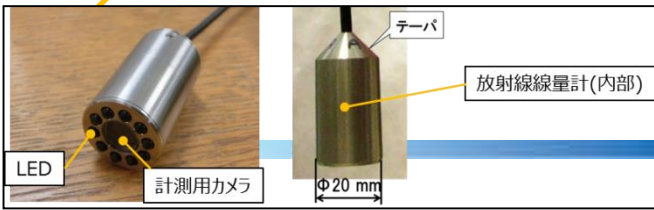
○形状変化型ロボット (B2調査)



I型(ガイドパイプ通過時)
 ↓変形
 ↓

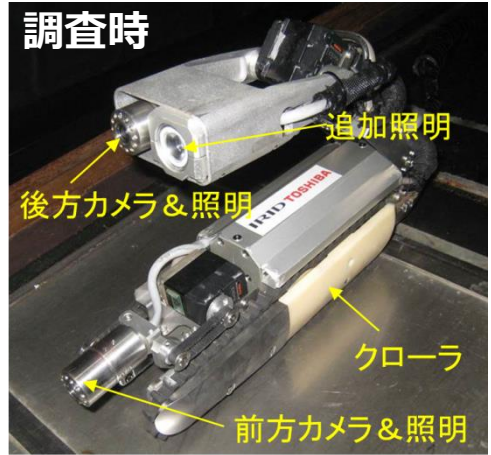
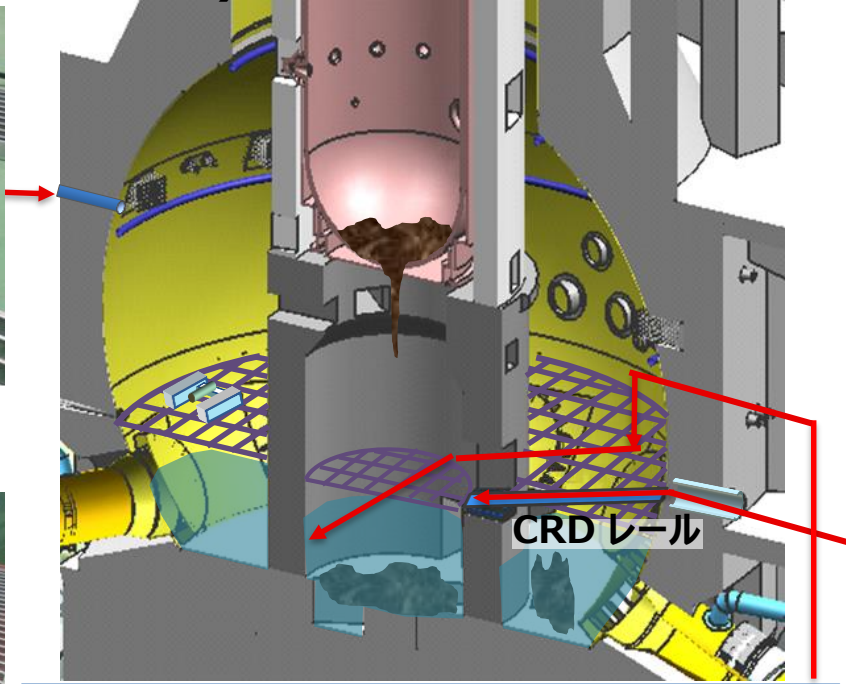


コ型(平面走行時)



ペDESTル内側の調査 (2号機)

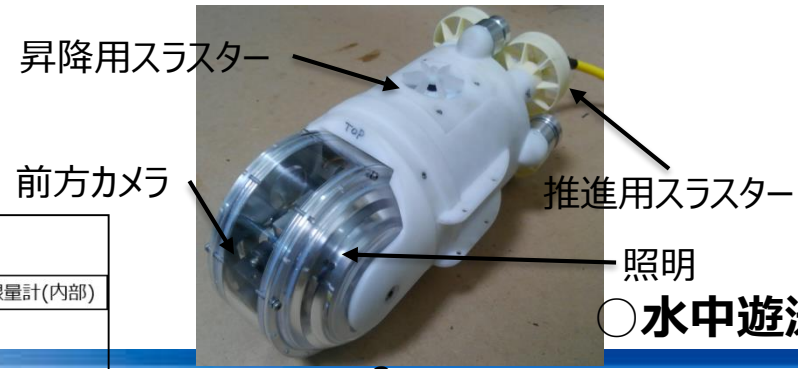
○クローラ型遠隔調査ロボット (A2調査)



○釣りざお型調査装置 (A2'調査)



ペDESTル内側の調査 (3号機)



○水中遊泳型ロボット

1号機 ペDESTAL外調査(2017.3)

3/18 (土)

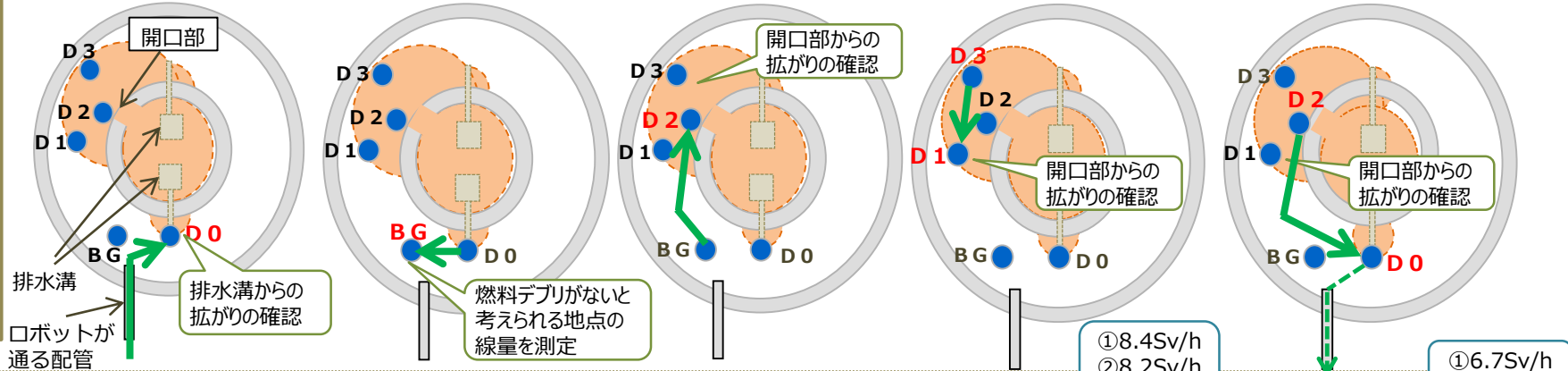
3/19 (日)

3/20 (月)

3/21 (火)

3/22 (水)

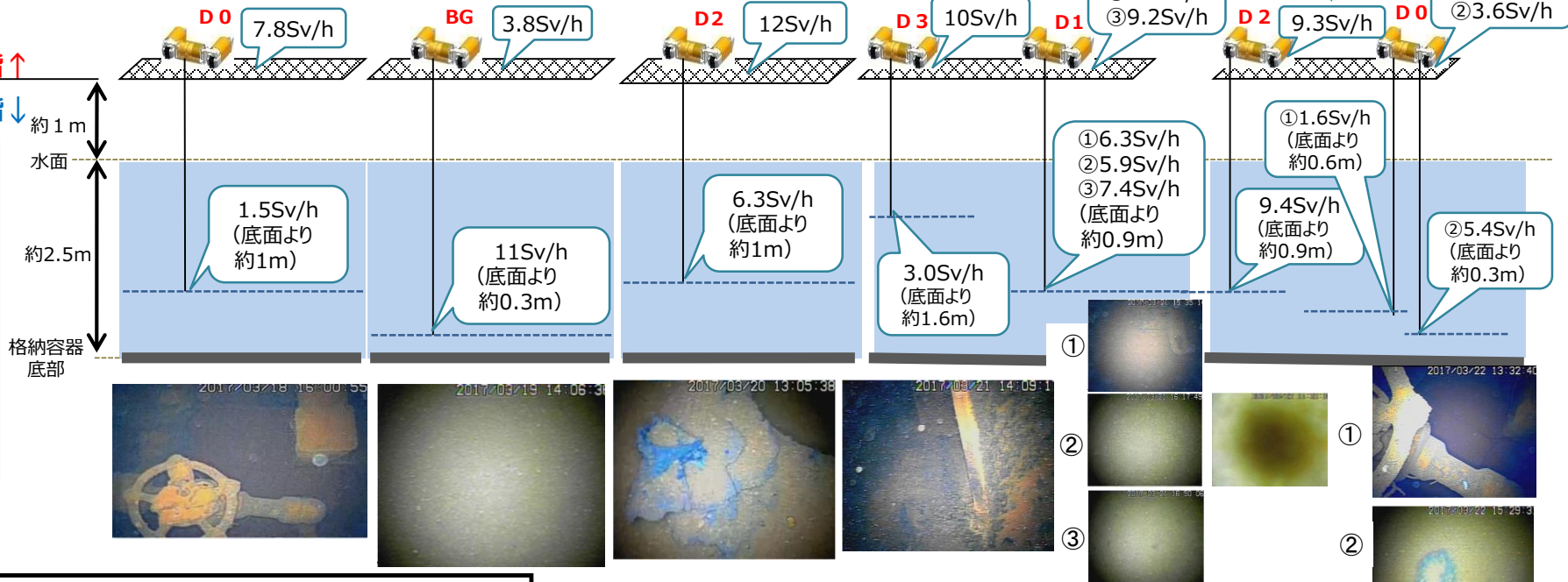
調査地点と調査の狙い
(平面図)



1階↑

地下階↓

調査結果 (断面図)



● 調査ポイント ← 調査経路 ○ 燃料デブリの拡がりイメージ (シミュレーションの一例)

※調査中の敷地境界における線量は、約0.5~2 μ Sv/hで変化なく、周辺環境への影響は生じていない。
 ※放射線量・底面からの距離は、今後評価予定。
 ※1階部分の放射線量は前回(2015年4月)の測定値(4.1~9.7Sv/h)と同程度

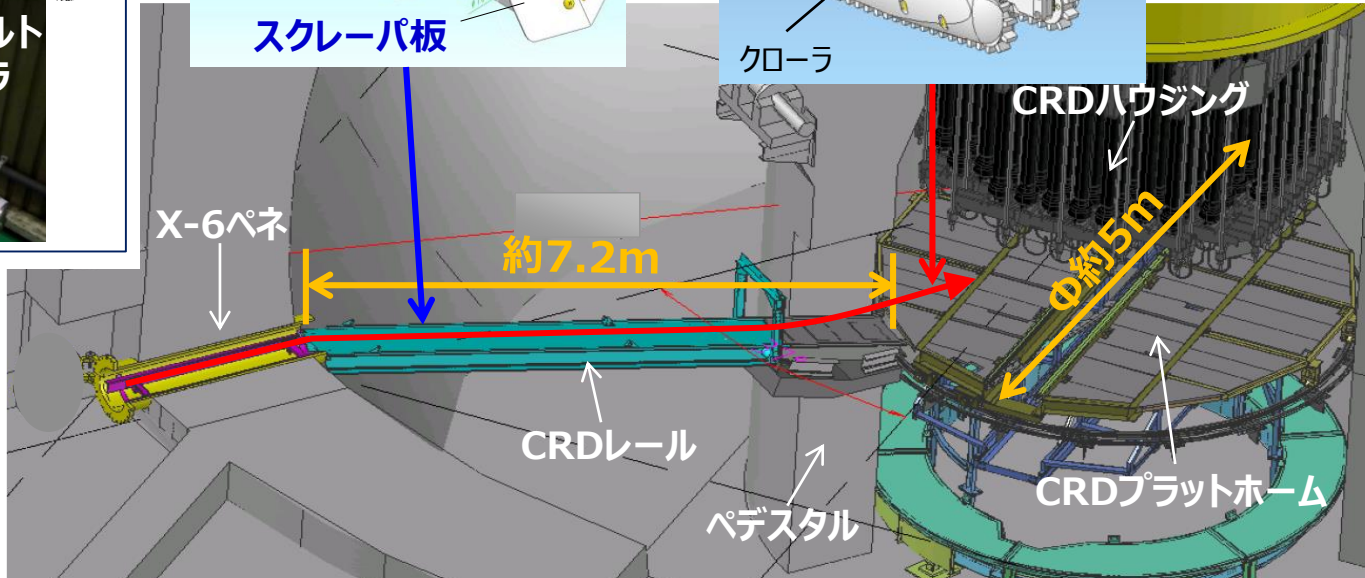
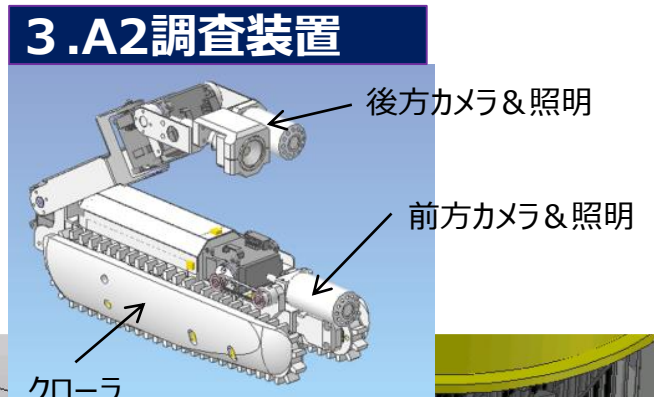
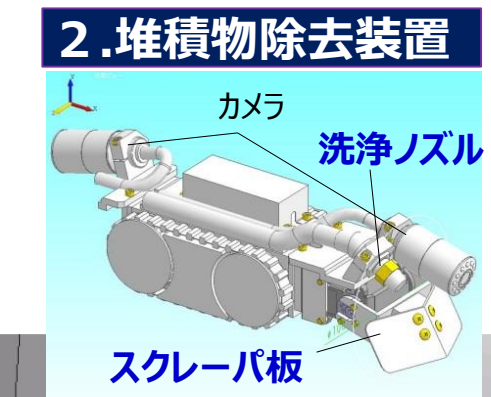
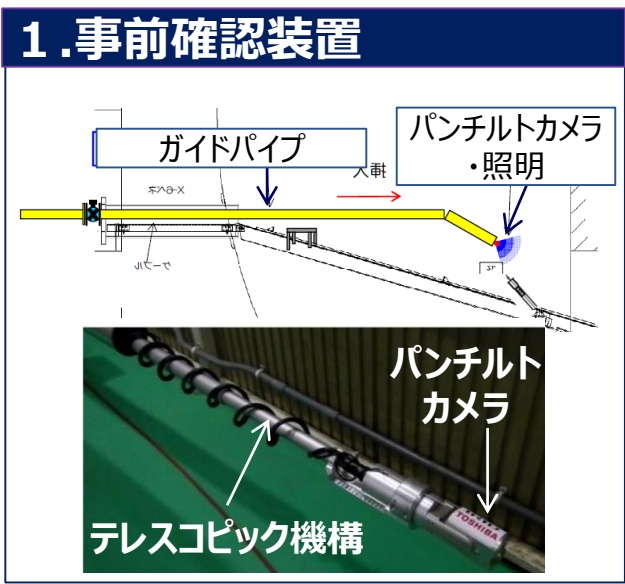
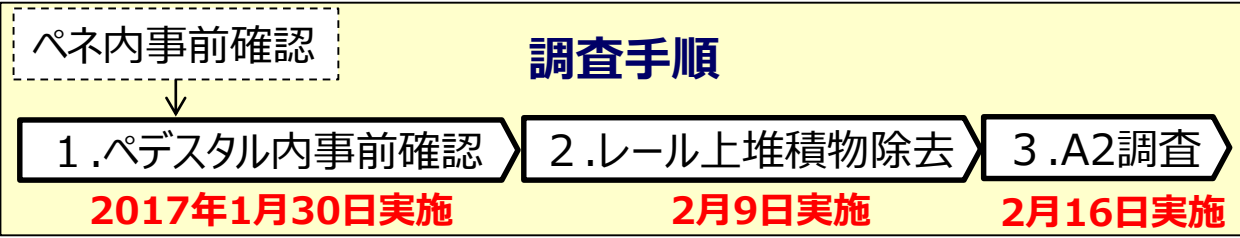
2号機 ペDESTAL内上部調査(A2調査 2017.1~2)

【調査方法】

- カメラによる撮影

【実施時期】

- 2017年1~2月



2号機 ペデスタル内上部調査(A2調査 2017.1~2)

ペデスタル内 上部 (画像処理後)

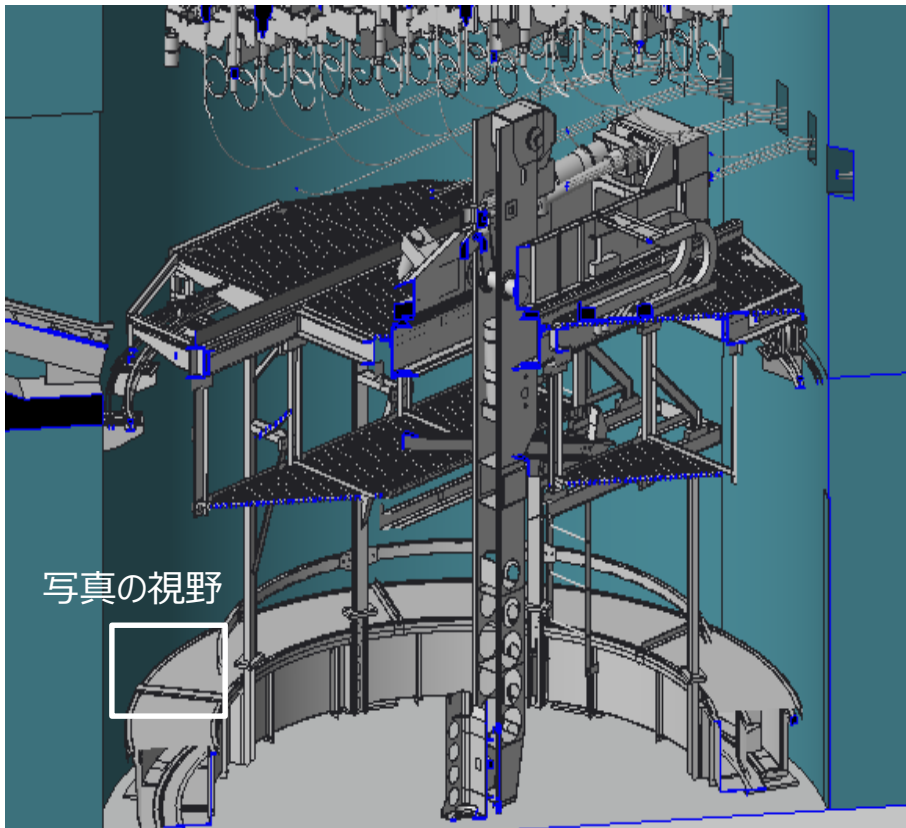
VIEWING ANGLE : 90

ImageList:

ImageIndex:



2号機 ペデスタル内下部調査(A2'調査 2018.1)

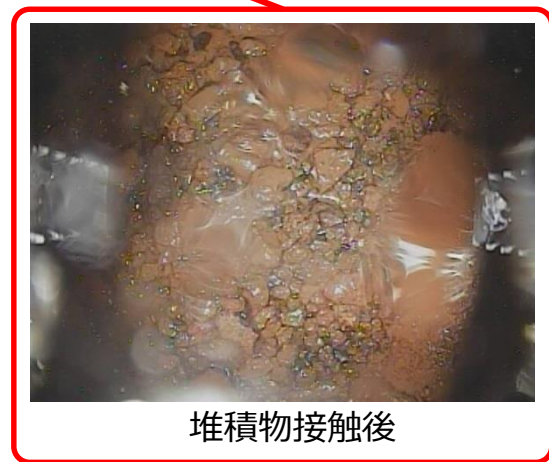
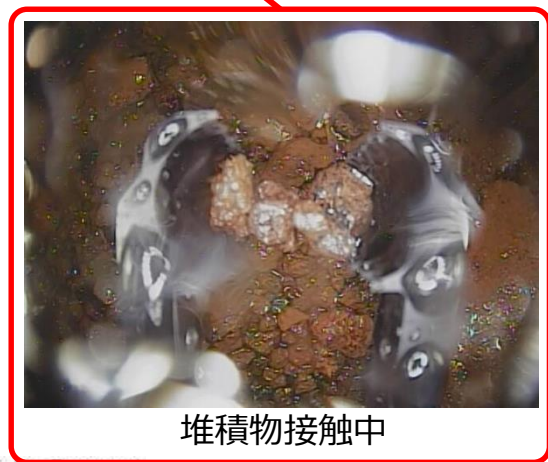
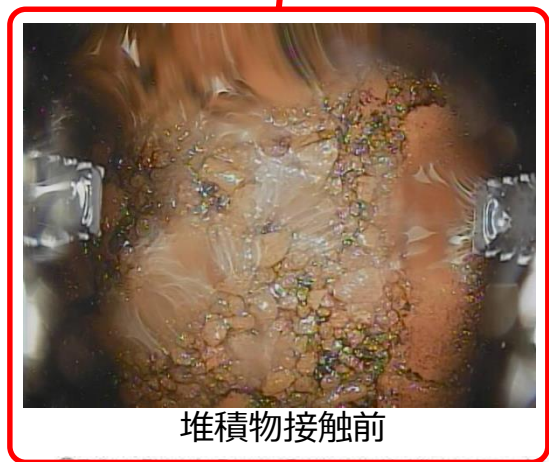
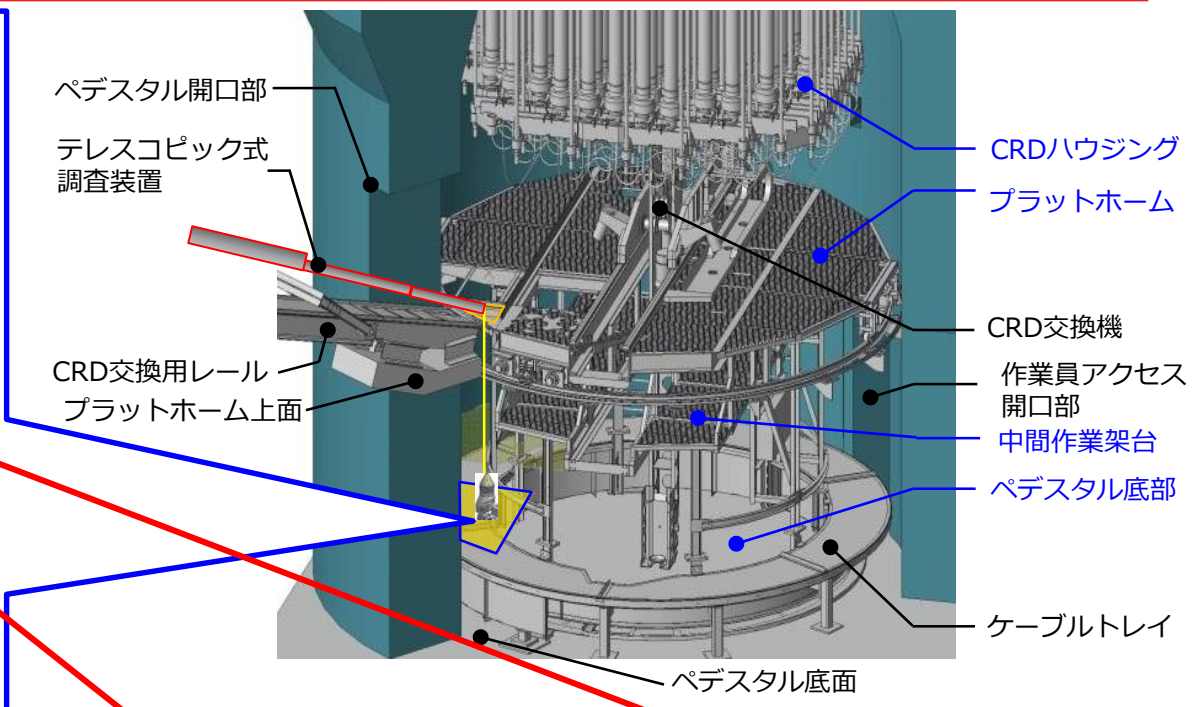


2号機格納容器内底部
(鳥瞰イメージ)

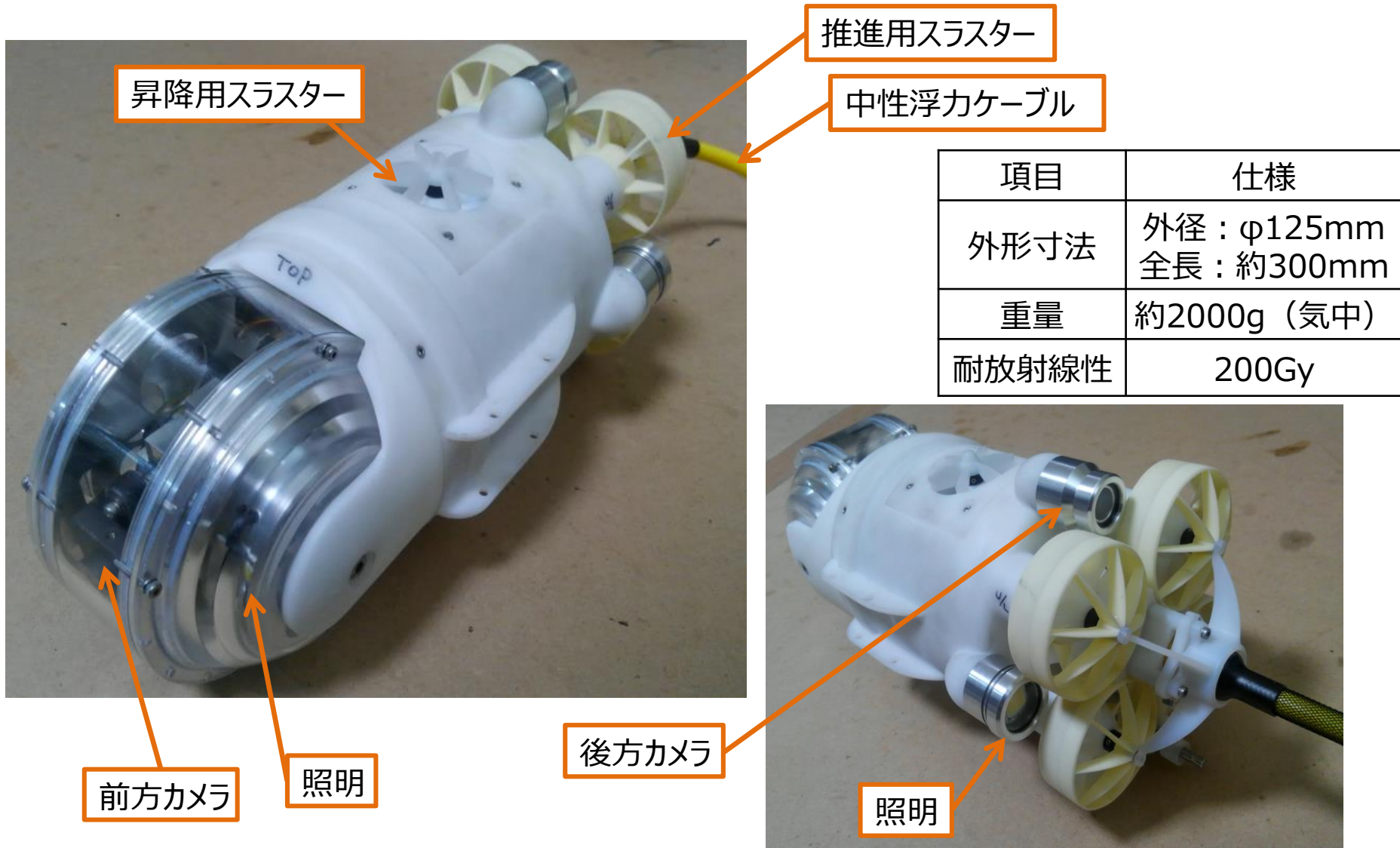
画像：2号機格納容器内底部，
ペデスタル内 内壁付近



2号機 ペDESTAL内下部調査(A2"調査 2019.2)TEPCO



3号機格納容器内調査 水中ROV



3号機 格納容器内調査結果

2. 調査結果

2.3. ペDESTAL内下部



作業員アクセス開口部
180°
プラットフォーム フレーム
撮影エリアC1
撮影エリアC5
撮影エリアC3
撮影エリアC4
撮影エリアC2
90°
0°

撮影エリアC1
<カメラ向き：下方>
堆積物 (小石状)

撮影エリアC2
<カメラ向き：水平>
グレーチング
落下物
堆積物 (砂状)

撮影エリアC3
<カメラ向き：上方>
塊状の堆積物

撮影エリアC4
<カメラ向き：下方>
塊状の堆積物

撮影エリアC5 <カメラ向き：下方>
旋回レールブラケット
堆積物
作業員アクセス開口部の方向

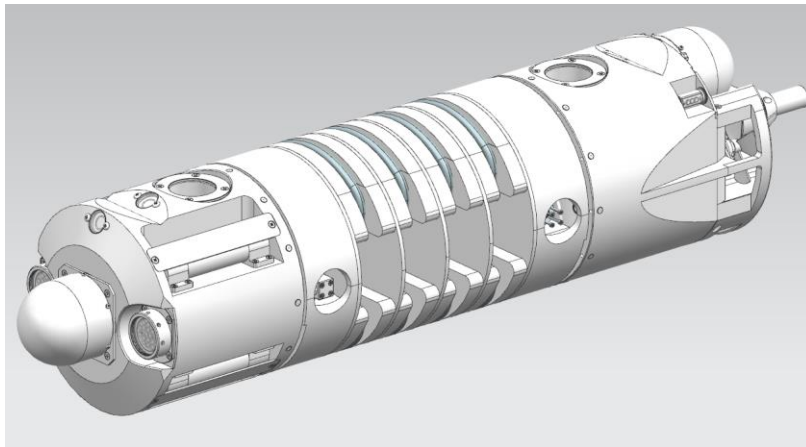
■ 砂状、小石状や塊状の堆積物を確認
■ 作業員アクセス開口部は視認できなかった (近傍に堆積物を確認)

株式会社
画像提供：国際廃炉研究開発機構 (IRID)
11

「3号機原子炉格納容器内部調査について(2017年11月30日 廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議(第48回)報告資料)」より抜粋

ボート型アクセス装置

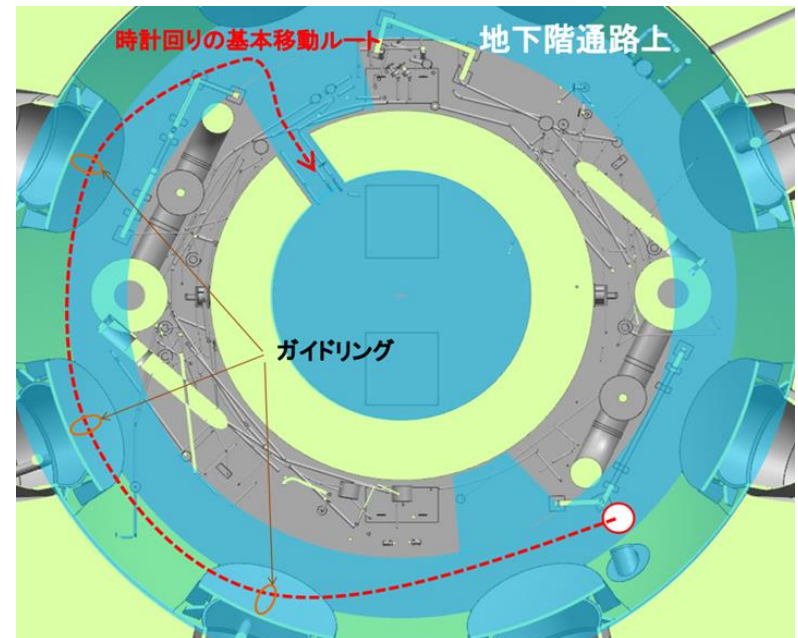
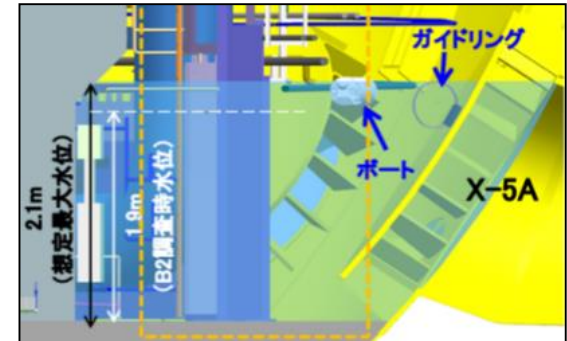
- 格納容器内の水の上を航行して、広範囲に移動可能なボート型アクセス装置を製作



ガイドリング取付用の例

- 直径: $\phi 25\text{cm}$
- 長さ: 約1.1m
- 推力: 25N以上

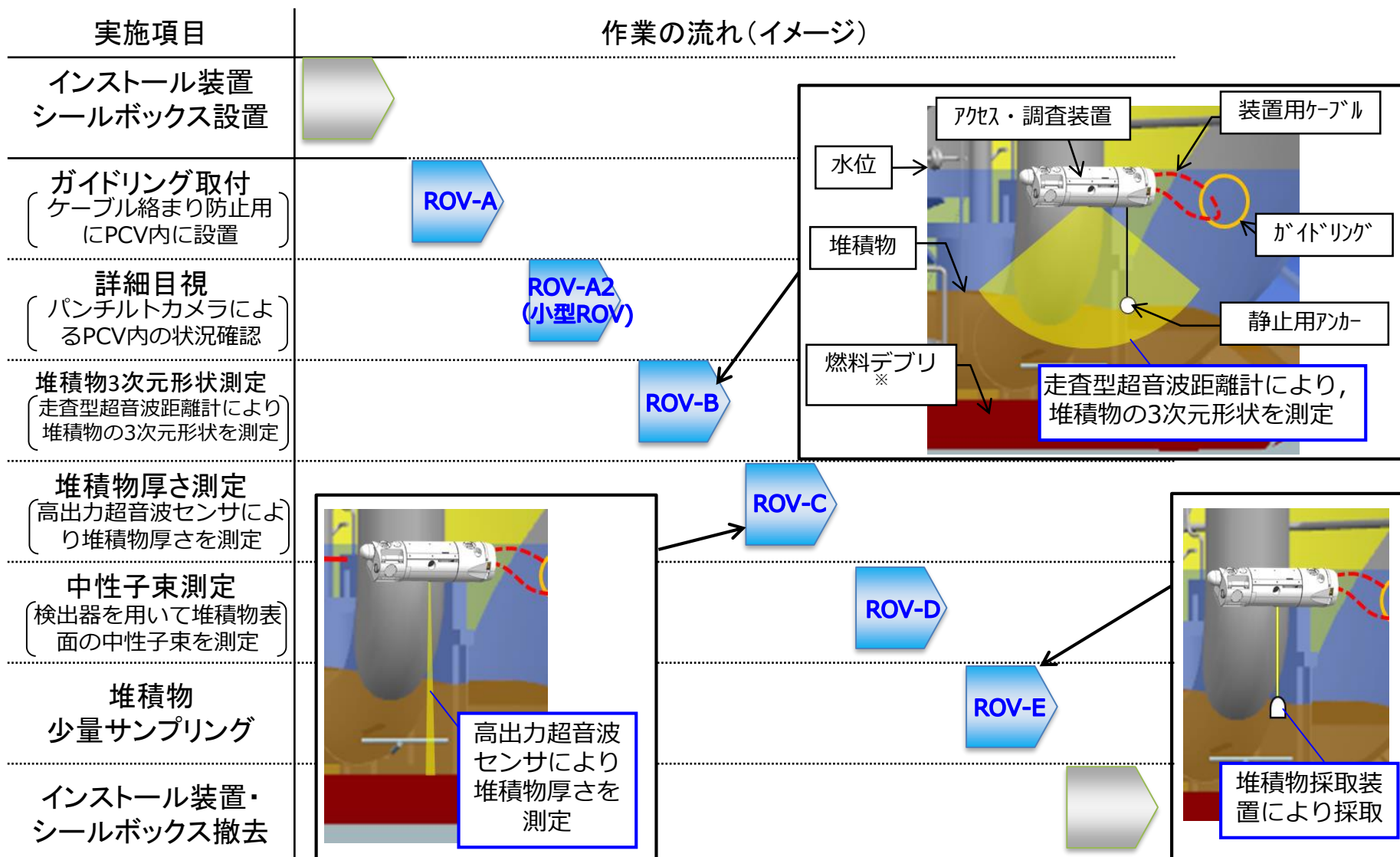
ボート型アクセス装置外観



ボート型アクセス装置の動線

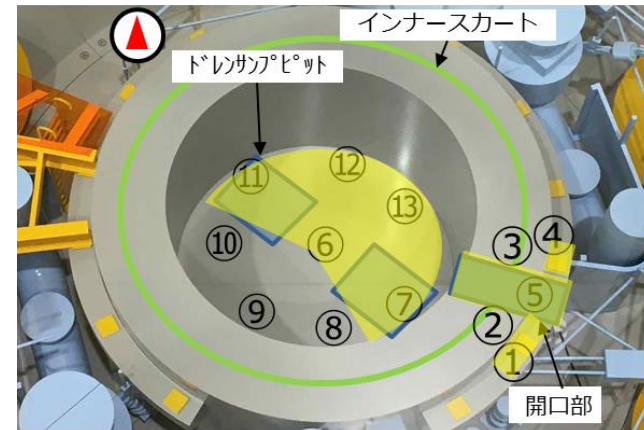
1号機：ボート型アクセス装置(X-2ペネからのPCV内部調査)

■ 潜水機能付ボート型アクセス・調査装置については、機能毎に6種類準備



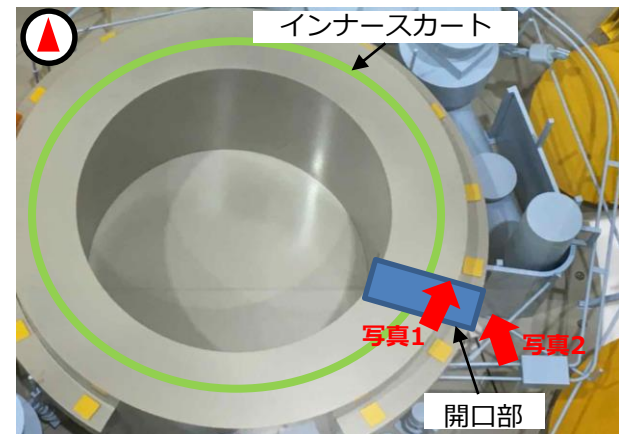
※：堆積物の厚さや燃料デブリの有無及び厚さは未知だが、説明のためイメージとして記載

【参考】ペDESTAL開口部から撮影した映像のパノラマ画像



【参考】ペDESTAL開口部右側のコンクリート残存(1/2)

- ペDESTAL外部から見えているコンクリート残存の可能性の高い部分（事故前に設置されたボルトの締結状態が確認できる。）について、2023/3の調査にて、ペDESTAL壁内部でも対応する部分を確認した
- ペDESTALの外壁開口部右側におけるコンクリートの消失は限定的と考えられる
- 確認された外側の鉄筋は、開口部右7本、左11本。耐震評価においては、開口部とあわせ、角度にして64°に相当するとして設定



ROVフレームの映り込み

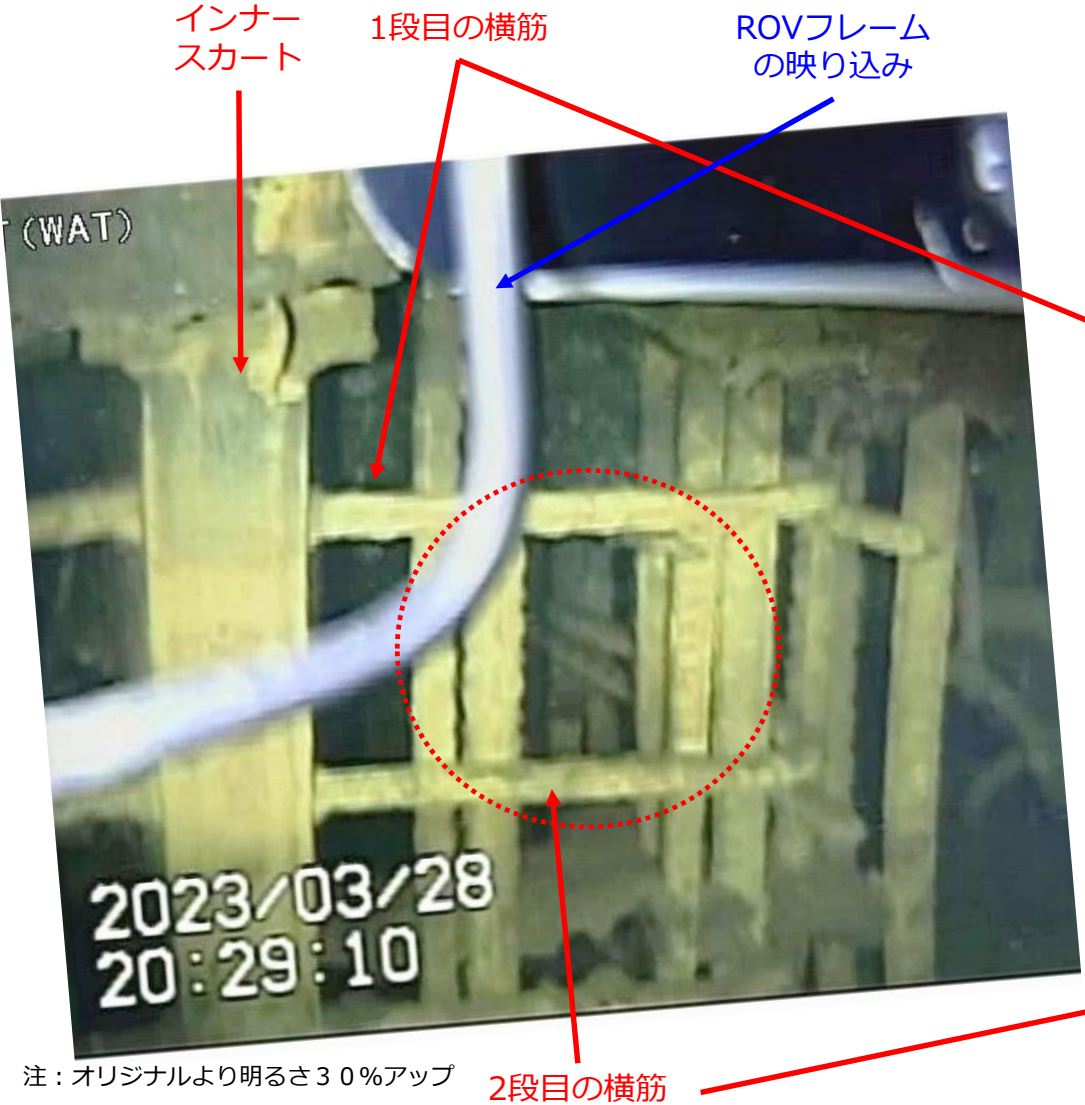


写真1. ペDESTAL開口部内から見えているコンクリート残存部



写真2. ペDESTAL外部から見えているコンクリート残存部

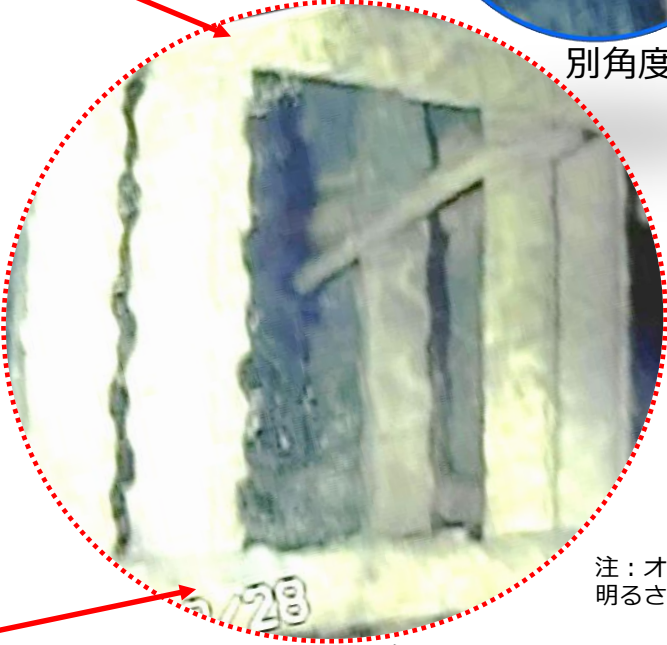
【参考】ペDESTAL開口部右側のコンクリート残存（2/2）



注：オリジナルより明るさ50%アップ



別角度から撮影



注：オリジナルより明るさ50%アップ

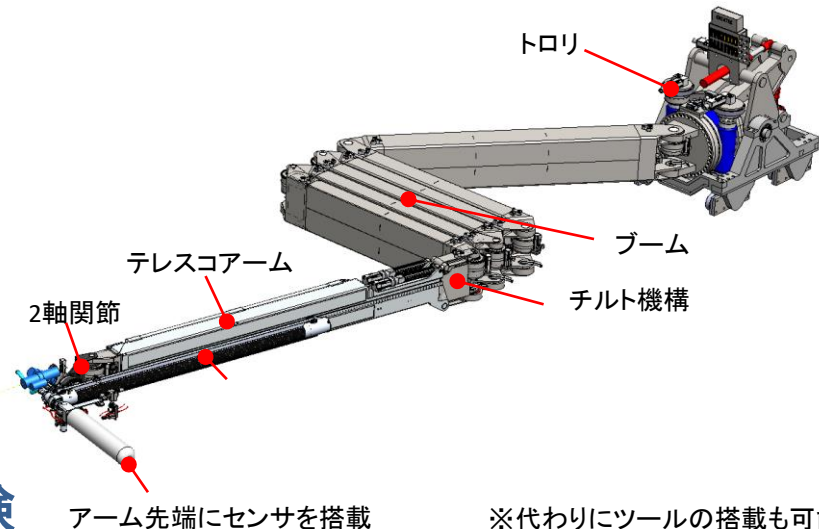
左写真赤丸部を別角度から撮影

図2 残存部の別角度からの映像

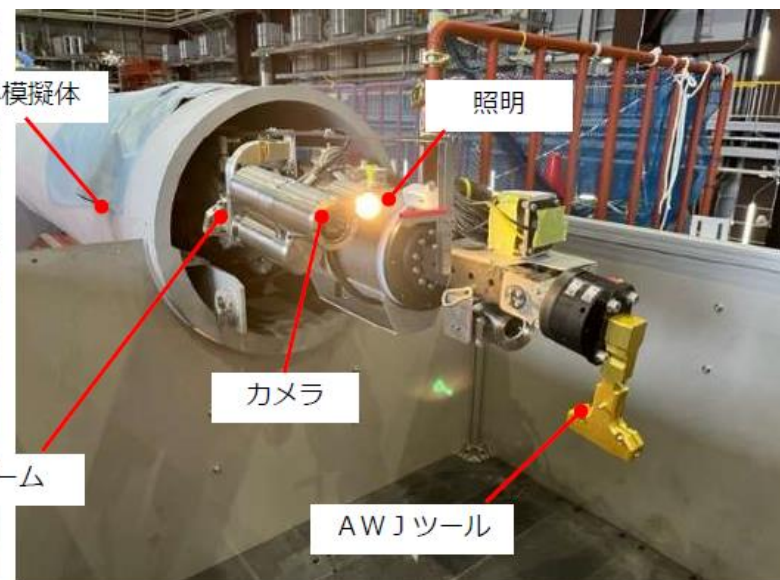
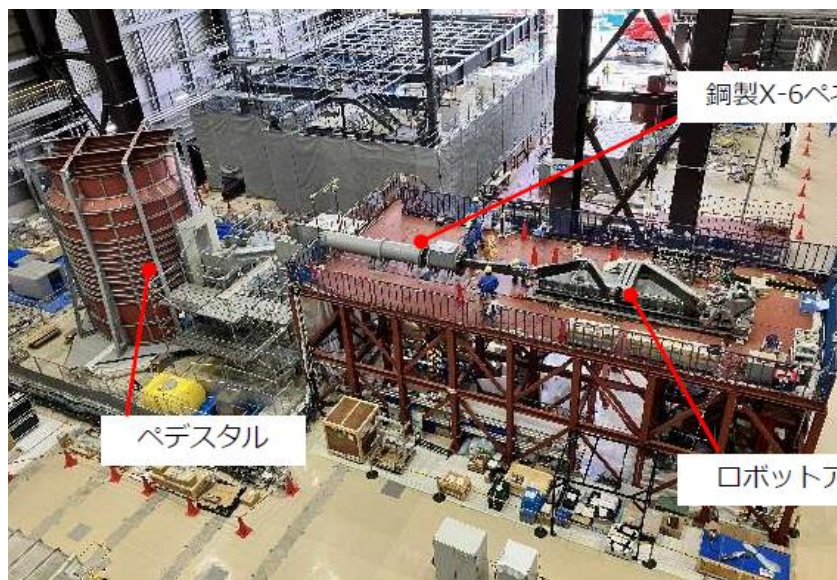
図1 開口部右側ペDESTAL外壁の残存部

ロボットアームの開発と実証

- 制御棒駆動機構メンテナンス用の格納容器貫通部（X-6ペネ）を通じて広範囲にアクセス可能なアーム型アクセス装置を製作
 - アーム全長約22 m
 - 10 kgまでの調査装置を搭載可能



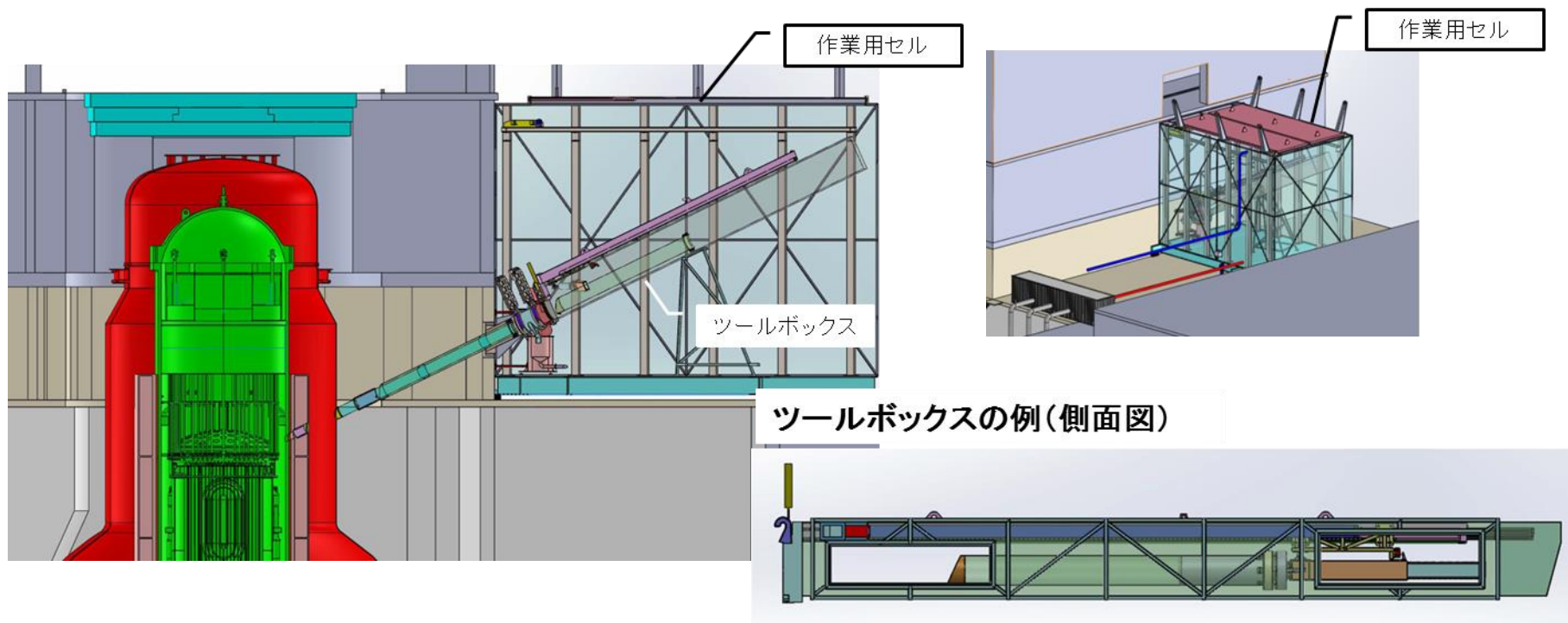
JAEA 櫛葉遠隔技術開発センターでの実証試験



「2号機PCV内部調査・試験的取り出し作業の準備状況(2023年6月29日 廃炉・汚染水処理水対策チーム会合／事務局会議(第115回)報告資料)」より抜粋

圧力容器内部調査技術

- 上部から圧力容器にアクセスし内部調査するための要素技術は、今後の装置試作に向け、あらかた検証済
- 加えて側面から圧力容器にアクセスするための要素技術を開発中



側面穴開け調査工法のイメージ

目 次

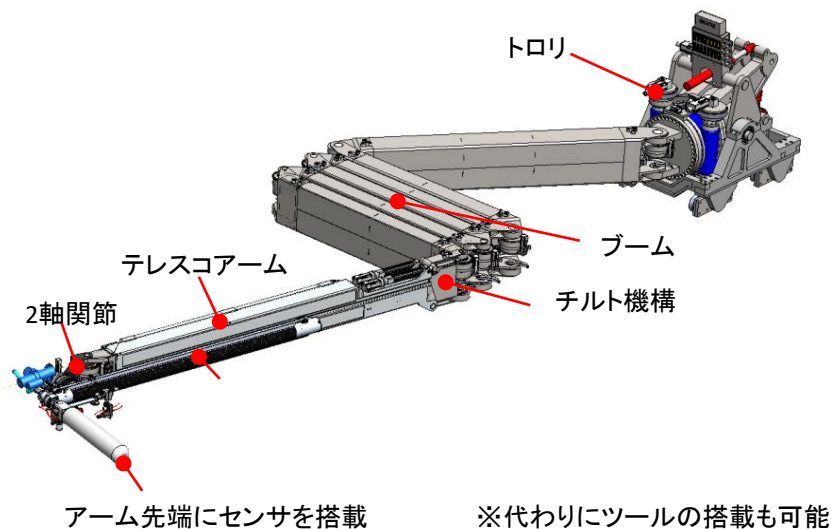
1.はじめに

2.PCV/RPV内部調査技術開発

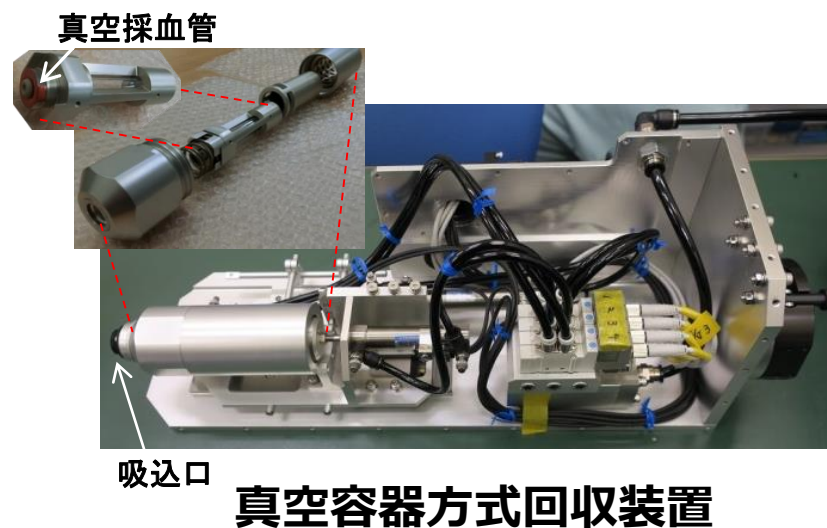
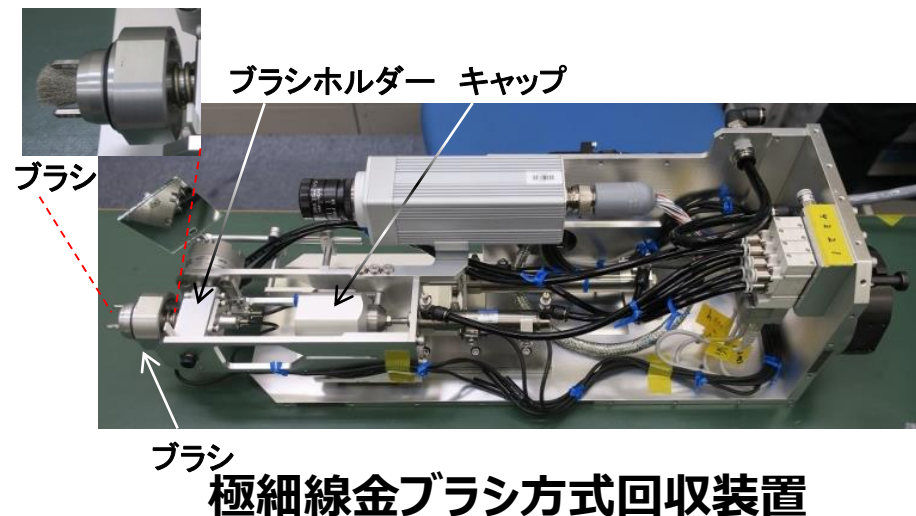
3.燃料デブリ取り出し技術開発

燃料デブリ 試験的取り出し

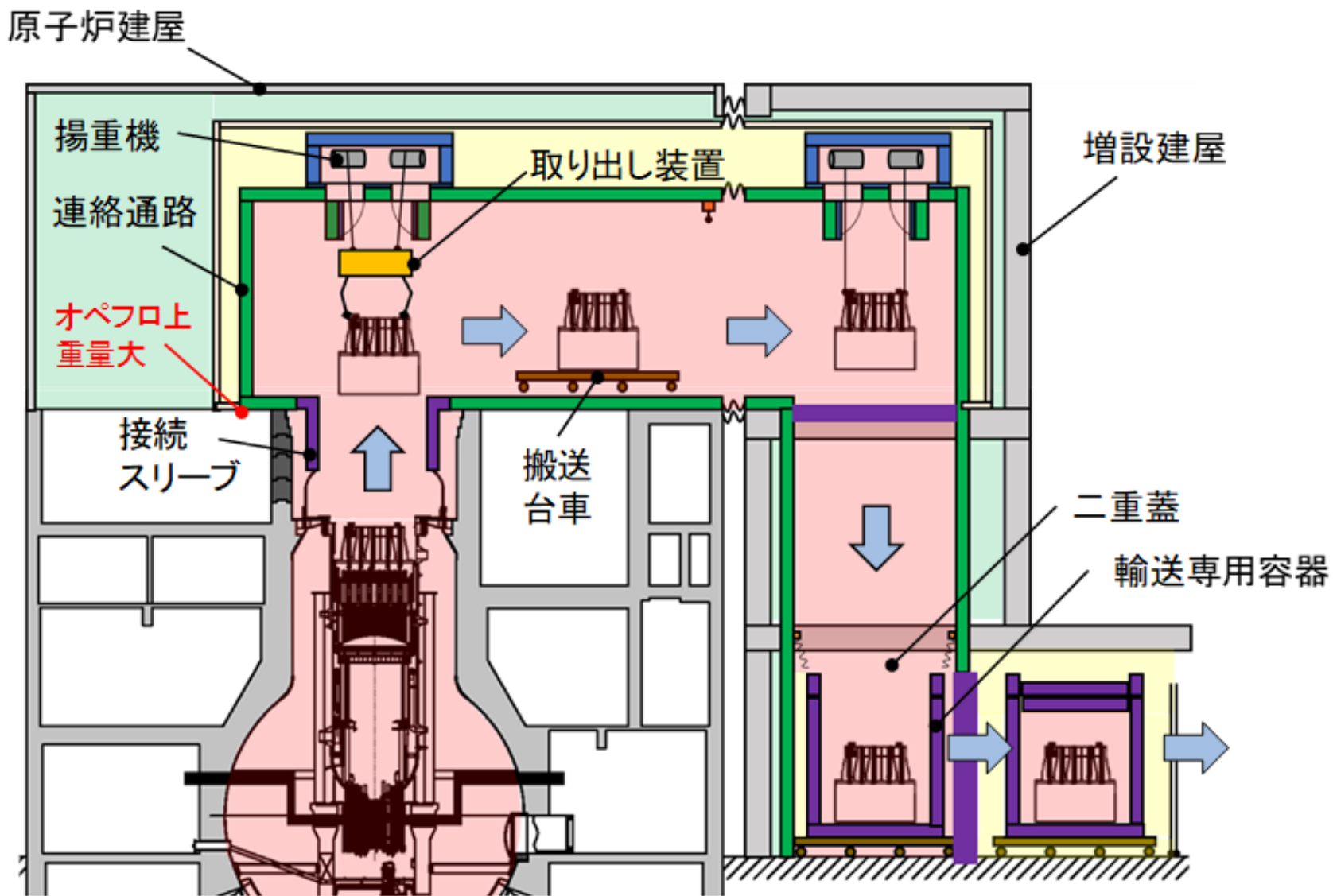
アーム型アクセス装置先端に極細線金ブラシ方式回収装置等を装着



アーム型アクセス装置



【上アクセス工法の例】：構造物一体撤去・搬出工法

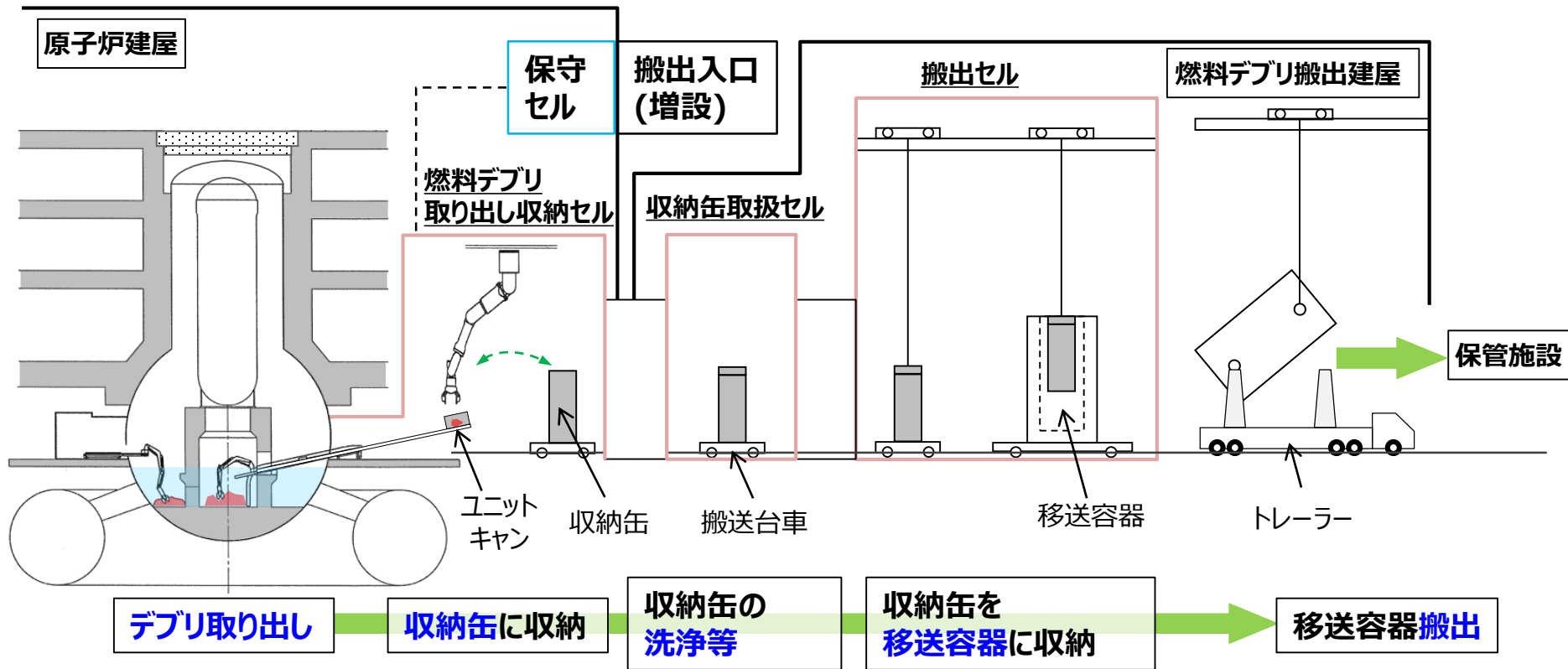


収納・移送・保管技術

収納缶の設計 ⇒ 1F固有の課題に対処

- 燃焼度と濃縮度が高い→**反応度高**
- コンクリートとの溶融生成物→コンクリート中の水分の放射線分解による**水素発生**
- 海水注入、計装ケーブル他との溶融→**塩分**の影響、**不純物**の混入

移送方法（**気中-横アクセス工法**の場合：例）



デブリ取り出し時の重要項目

1. 閉じ込め

デブリの切削、はつり等を行う際に発生するダストを環境に放出しない。

2. 作業員被ばくの低減

作業時の作業員被ばくの低減を目指す。

3. 臨界防止

デブリ取り出しに伴う形状変化により臨界となるリスク回避。

4. 火災・爆発（不活性化）

デブリの切削、はつり等を行う際に発火、水素爆発防止。

5. 冷却

事故後時間が経過しており、崩壊熱は減少しているが、一定の冷却は必要。

ご清聴ありがとうございました。